



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

被検体内に超音波を送受信する探触子と、  
被検体内からの反射エコー信号を受信して遅延処理を行い位相を揃えて加算する整相手段と、

この整相手段からの整相出力信号を入力して生体組織の超音波反射率を演算する手段と

、  
上記整相出力信号を入力して生体組織の弾性率を演算する手段と、

これら各演算手段からの演算出力信号を入力して画像データを作成するスキャンコンバータと、

このスキャンコンバータからの画像データを超音波画像として表示する画像表示装置とを備え、

被検体内への超音波走査方向における生体組織の超音波反射率と弾性率とを計測し、時間経過による反射率断層像と弾性率画像を画像表示装置に表示することを特徴とする超音波診断装置。

**【請求項 2】**

上記画像表示装置に表示する反射率断層像と弾性率画像とは、時間経過による生体組織の超音波反射率に応じた輝度と、生体組織の弾性率に応じた輝度で表示することを特徴とする請求項 1 記載の超音波診断装置。

**【請求項 3】**

上記画像表示装置に表示する反射率断層像と弾性率画像とは、診断部位の深さを画面の縦軸方向にとり、時間軸を横軸方向にとって、順次時間軸方向にスクロールさせて診断部位の深さ方向における超音波反射率の大きい部位と弾性率の大きい部位を画像化して表示することを特徴とする請求項 1 記載の超音波診断装置。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、超音波を利用して被検体内の診断部位について超音波画像を得て表示する超音波診断装置に関し、特に、生体組織の反射率断層像と弾性率画像とを画像表示装置の同一画面上に表示することができる超音波診断装置に関する。

**【背景技術】****【0002】**

従来、超音波診断装置は、超音波を利用して被検体内の生体組織の超音波反射率を計測し、それを輝度とし診断部位の反射率断層像として表示していた。また、近年の超音波診断装置においては、組織性状診断として生体組織の弾性率を計測し、それを輝度とし診断部位の弾性率画像として表示することが行われるようになってきた。この弾性率画像は、診断部位の生体組織が硬いか、軟らかいかを計測して被検体の診断に役立てようとするものである。

**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

しかし、従来、超音波診断装置においては、診断部位の反射率断層像と弾性率画像とは別々に表示していた。即ち、反射率断層像を表示しているときは弾性率画像は表示されず、弾性率画像を表示しているときは反射率断層像は表示されないものであった。この場合、弾性率画像を表示しているときは反射率断層像が表示されないことから、被検体内部のどの部分の弾性率画像を観察しているのかがわからず、解剖学的にどの部分の生体組織が硬いか、軟らかいかを判断するのが困難であり、診断に十分に役立てることができないことがあった。

**【0004】**

そこで、本発明は、このような問題点に対処し、生体組織の反射率断層像と弾性率画像

10

20

30

40

50

とを画像表示装置の同一画面上に表示することができる超音波診断装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記目的を達成するために、本発明による超音波診断装置は、被検体内に超音波を送受信する探触子と、被検体内からの反射エコー信号を受信して遅延処理を行い位相を揃えて加算する整相手段と、この整相手段からの整相出力信号を入力して生体組織の超音波反射率を演算する手段と、上記整相出力信号を入力して生体組織の弾性率を演算する手段と、これら各演算手段からの演算出力信号を入力して画像データを作成するスキャンコンバータと、このスキャンコンバータからの画像データを超音波画像として表示する画像表示装置とを備え、被検体内への超音波走査方向における生体組織の超音波反射率と弾性率とを計測し、時間経過による反射率断層像と弾性率画像を画像表示装置に表示するものである。

10

【0006】

また、上記画像表示装置に表示する反射率断層像と弾性率画像とは、時間経過による生体組織の超音波反射率に応じた輝度と、生体組織の弾性率に応じた輝度で表示するようにしてもよい。

【0007】

さらに、上記画像表示装置に表示する反射率断層像と弾性率画像とは、診断部位の深さを画面の縦軸方向にとり、時間軸を横軸方向にとって、順次時間軸方向にスクロールさせて診断部位の深さ方向における超音波反射率の大きい部位と弾性率の大きい部位を画像化して表示するようにしてもよい。

20

【発明の効果】

【0008】

請求項1に係る発明によれば、被検体内への超音波走査方向における生体組織の超音波反射率と弾性率とを計測し、時間経過による反射率断層像と弾性率画像を画像表示装置に表示することができる。したがって、被検体内部のどの部分の弾性率画像を観察しているのかが一目瞭然に理解でき、診断に役立てることができる。

【0009】

また、請求項2に係る発明によれば、反射率断層像と弾性率画像を、時間経過による生体組織の超音波反射率に応じた輝度と、生体組織の弾性率に応じた輝度で画像表示装置に表示することができる。

30

【0010】

さらに、請求項3に係る発明によれば、反射率断層像と弾性率画像を、診断部位の深さを画面の縦軸方向にとり、時間軸を横軸方向にとって、順次時間軸方向にスクロールさせて診断部位の深さ方向における超音波反射率の大きい部位と弾性率の大きい部位を画像化して、画像表示装置に表示することができる。したがって、診断部位の深さ方向における超音波反射率の大きい部位と弾性率の大きい部位との関係が理解できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

以下、本発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。

40

図1は本発明による超音波診断装置の実施の形態を示すブロック図である。この超音波診断装置は、超音波を利用して被検体内の診断部位について超音波画像を得て表示するので、特に、生体組織の反射率断層像と弾性率画像とを画像表示装置の同一画面上に表示するもので、図1に示すように、探触子1と、送波パルス発生器2と、送受分離回路3と、低周波発振器4と、パイプレータ5と、送波制御回路6と、整相回路7と、反射・弾性率弁別回路8と、反射率演算回路9と、弾性率演算回路10と、スキャンコンバータ11と、画像表示装置12とを備えてなる。

【0012】

上記探触子1は、被検体13内に超音波を送受信するもので、図示省略したがその内部

50

には、超音波を打ち出すと共に反射エコーを受信する複数の振動子が内蔵されている。送波パルス発生器 2 は、上記探触子 1 を駆動して超音波を送信するための送波パルス信号を発生するものである。また、送受分離回路 3 は、上記送波パルス発生器 2 からの送波パルス信号を探触子 1 より超音波を送信することができるように増幅して該探触子 1 に与え、その後信号線を切り換えることにより探触子 1 からの受信信号のみを整相回路 7 側に送るものである。

【 0 0 1 3 】

低周波発振器 4 は、被検体 1 3 に低周波振動を与えるために低周波信号を発生するものである。パイプレンタ 5 は、上記低周波発振器 4 で発生された低周波信号を入力して振動し、被検体 1 3 に対して圧力変化を与えるものである。また、送波制御回路 6 は、上記送波パルス発生器 2 及び低周波発振器 4 を制御するもので、被検体 1 3 内の診断部位の反射率断層像又は弾性率画像の計測のモードに応じて送波のタイミングを生成するようになっている。

10

【 0 0 1 4 】

整相回路 7 は、被検体 1 3 内からの反射エコー信号を受信して遅延処理を行い位相を揃えて加算する整相手段となるもので、その内部には、上記探触子 1 の各振動子で受信した反射エコー信号を増幅する受波増幅器と、この受信した各反射エコー信号の位相を揃えて加算し受波の超音波ビームを形成する受波遅延回路及び加算器などから成る。

【 0 0 1 5 】

反射・弾性率弁別回路 8 は、上記整相回路 7 からの整相出力信号を入力して、送波制御回路 6 で生成される反射率断層像又は弾性率画像の計測のモードに応じた送波のタイミングに合わせて、反射率計測用信号と弾性率計測用信号とに弁別するものである。そして、反射率演算回路 9 は、上記反射・弾性率弁別回路 8 からの反射率計測用信号を入力して生体組織の超音波反射率を演算する手段となるものである。また、弾性率演算回路 10 は、上記反射・弾性率弁別回路 8 からの弾性率計測用信号を入力して生体組織の弾性率を演算する手段となるものである。

20

【 0 0 1 6 】

スキャンコンバータ 11 は、上記反射率演算回路 9 又は弾性率演算回路 10 からの超音波反射率又は弾性率の演算出力信号を入力して画像データを作成するものである。さらに、画像表示装置 12 は、上記スキャンコンバータ 11 からの画像データを超音波画像として表示するもので、例えばカラーのテレビモニタから成る。

30

【 0 0 1 7 】

そして、本発明においては、上記反射・弾性率弁別回路 8 及び反射率演算回路 9 並びに弾性率演算回路 10 の動作により、被検体 1 3 内の診断部位の反射率断層像と弾性率画像とを同時に、或いは交互に計測し、それらを画像表示装置 12 の同一画面上に表示するようになっている。

【 0 0 1 8 】

次に、このように構成された超音波診断装置において診断部位の反射率断層像と弾性率画像とを得て表示する動作について、図 2 及び図 3 を参照して説明する。まず、図 1 に示す送波制御回路 6 により、図 2 に示すように、反射率断層像を計測する反射率測定時相と弾性率画像を計測する弾性率測定時相とに応じて送波のタイミング  $T_1$ 、 $T_2$ 、 $T_3$  を生成する。この生成された送波タイミング  $T_1$ 、 $T_2$ 、 $T_3$  は送波パルス発生器 2 及び低周波発振器 4 に送られ、それらの動作を制御する。

40

【 0 0 1 9 】

まず、送波タイミング  $T_1$  の時には、反射率測定時相であり、送波パルス発生器 2 は、タイミング  $T_1$  に合わせて例えば周波数 3.5 MHz、3 波数の正弦波を発生させ、送受分離回路 3 を介して探触子 1 に送波パルス信号を供給する。これにより、探触子 1 が駆動され、該探触子 1 から被検体 1 3 内に超音波が送信されると共に、反射エコー信号が受信される。このときは、低周波発振器 4 は動作しておらず、被検体 1 3 内には圧力変化が与えられていないので、通常の反射率断層像 (B モード像) を計測するモードとなる。そして、

50

反射・弾性率弁別回路 8 は、整相回路 7 からの整相出力信号を反射率計測用信号と弁別し、反射率演算回路 9 へ上記整相出力信号を送る。この場合、反射率演算回路 9 では、通常の反射率断層像の信号処理を行い、生体組織の超音波反射率を演算する。

【 0 0 2 0 】

次に、送波タイミング  $T_2$  の時には、弾性率測定時相に入り、低周波発振器 4 は、図 2 に示すような出力信号をパイプレータ 5 に送出し、該パイプレータ 5 は振動して上記出力信号の振幅に応じた圧力を被検体 1 3 に与える。この状態でも、送波パルス発生器 2 は送受分離回路 3 を介して探触子 1 に送波パルス信号を供給する。これにより、探触子 1 から被検体 1 3 内に超音波が送信されると共に、反射エコー信号が受信される。このときは、被検体 1 3 内に圧力変化が与えられた状態で計測するので、弾性率画像を計測するモードとなる。そして、反射・弾性率弁別回路 8 は、整相回路 7 からの整相出力信号を弾性率計測用信号と弁別し、弾性率演算回路 1 0 へ上記整相出力信号を送る。この場合、弾性率演算回路 1 0 では、弾性率画像の信号処理を行い、そのときの信号を例えば  $E_2(t)$  として記憶する。

10

【 0 0 2 1 】

次に、送波タイミング  $T_3$  の時には、引き続き弾性率測定時相であり、上記と同様にパイプレータ 5 によって被検体 1 3 に圧力変化が与えられ、探触子 1 により上記圧力変化が与えられた被検体 1 3 内に超音波が送信されると共に、反射エコー信号が受信される。このとき、圧力変化を受けた被検体 1 3 の内部の微小な反射体は、その生体組織の弾性率の違いによって位置の変化の度合いが変わるため、超音波反射波の振幅の変化を起こす。このときも、上記と同様に弾性率画像を計測するモードとなる。そして、反射・弾性率弁別回路 8 は、整相回路 7 からの整相出力信号を弾性率計測用信号と弁別し、弾性率演算回路 1 0 へ上記整相出力信号を送る。この場合、弾性率演算回路 1 0 では、弾性率画像の信号処理を行い、そのときの信号を例えば  $E_3(t)$  として記憶する。

20

【 0 0 2 2 】

そして、上記弾性率演算回路 1 0 では、記憶した二つの信号  $E_2(t)$  ,  $E_3(t)$  からその変化率  $E(t)$  を次式により求め、生体組織の弾性率を演算する。

$$E(t) = \{ E_2(t) - E_3(t) \} / E_2(t)$$

これを上記被検体 1 3 の内部の微小な反射体の弾性率として出力する。

【 0 0 2 3 】

上記反射率演算回路 9 から出力された生体組織の超音波反射率の信号、及び弾性率演算回路 1 0 から出力された生体組織の弾性率の信号は、スキャンコンバータ 1 1 に入力し、該スキャンコンバータ 1 1 により、生体組織の超音波反射率に応じた白黒の輝度として画像データを作成し、生体組織の弾性率に応じて赤や青その他の色の輝度として画像データを作成する。これを走査線を順次移動させ、走査線毎に画像データを作成していく。

30

【 0 0 2 4 】

上記スキャンコンバータ 1 1 で作成された画像データは、画像表示装置 1 2 へ入力されて表示される。このとき、図 3 に示すように、画像表示装置 1 2 の表示画面を例えば左右或いは上下に二分割し、一方側に生体組織の超音波反射率の大きい部位（臓器）A を画像化した反射率断層像  $I_1$  を表示し、他方側に生体組織の弾性率の大きい部位（臓器）B を画像化した弾性率画像  $I_2$  を表示する。これにより、被検体 1 3 内の診断部位の反射率断層像  $I_1$  と弾性率画像  $I_2$  とを画像表示装置 1 2 の同一画面上に表示することができる。

40

【 0 0 2 5 】

なお、図 2 においては、送波タイミング  $T_1$  と  $T_2$  とを異なる時相としたが、これに限らず、上記送波タイミング  $T_1$  と  $T_2$  とを同一時相としてもよい。この場合は、反射率測定時相と弾性率測定時相とが重なり、診断部位の反射率断層像  $I_1$  と弾性率画像  $I_2$  とを同時に計測して、同一画面上に表示することができる。

【 0 0 2 6 】

図 4 は、画像表示装置 1 2 に対する反射率断層像と弾性率画像の表示の他の実施形態を示す説明図である。この実施形態は、上記画像表示装置 1 2 に表示する反射率断層像  $I_1$

50

と弾性率画像  $I_2$  とを、それぞれ別の色の輝度とし、同一画面上にて両画像を重ねて表示するようにしたものである。例えば、生体組織の超音波反射率の大きい部位 A を画像化した反射率断層像  $I_1$  を超音波反射率に応じた白黒の輝度とし、生体組織の弾性率の大きい部位 B を画像化した弾性率画像  $I_2$  を弾性率に応じて赤や青その他の色の輝度として、両画像を重ねて表示する。このようにすると、被検体 1 3 内部のどの部分の弾性率画像  $I_2$  を観察しているのかが一目瞭然に理解でき、解剖学的にどの部分の生体組織が硬いか、軟らかいかを判断するのが容易となる。

【 0 0 2 7 】

図 5 は、画像表示装置 1 2 に対する反射率断層像と弾性率画像の表示の更に他の実施形態を示す説明図である。この実施形態は、被検体 1 3 内への超音波走査方向を一定とし、その走査線 1 4 の方向における生体組織の超音波反射率と弾性率とを計測し、時間経過による超音波反射率に応じた輝度と弾性率に応じた輝度で表示するようにしたものである。このときは、図 1 に示すスキャンコンバータ 1 1 の動作を変え、通常 of M モード像と同様の表示を行う。即ち、被検体 1 3 内の診断部位に対し走査線 1 4 の方向を固定し、例えば、診断部位の深さを画面の縦軸方向にとり、時間軸を横軸方向にとって、順次時間軸方向にスクロールさせて診断部位の深さ方向における超音波反射率の大きい部位 A と弾性率の大きい部位 B を画像化して、同一画面上に表示する。この場合は、診断部位の深さ方向における超音波反射率の大きい部位 A と弾性率の大きい部位 B との関係が理解できる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 8 】

【 図 1 】 本発明による超音波診断装置の実施の形態を示すブロック図である。

【 図 2 】 上記超音波診断装置の送波制御回路により、反射率測定時相と弾性率測定時相とに応じて送波のタイミングが生成される状態を示す説明図である。

【 図 3 】 画像表示装置の同一画面上に表示される診断部位の反射率断層像と弾性率画像とを示す説明図である。

【 図 4 】 画像表示装置に対する反射率断層像と弾性率画像の表示の他の実施形態を示す説明図である。

【 図 5 】 画像表示装置に対する反射率断層像と弾性率画像の表示の更に他の実施形態を示す説明図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 9 】

- 1 ... 探触子 1
- 2 ... 送波パルス発生器
- 3 ... 送受分離回路
- 4 ... 低周波発振器
- 5 ... パイプレータ
- 6 ... 送波制御回路
- 7 ... 整相回路
- 8 ... 反射・弾性率弁別回路
- 9 ... 反射率演算回路
- 1 0 ... 弾性率演算回路
- 1 1 ... スキャンコンバータ
- 1 2 ... 画像表示装置
- 1 3 ... 被検体
- 1 4 ... 走査線
- A ... 反射率の大きい部位
- B ... 弾性率の大きい部位

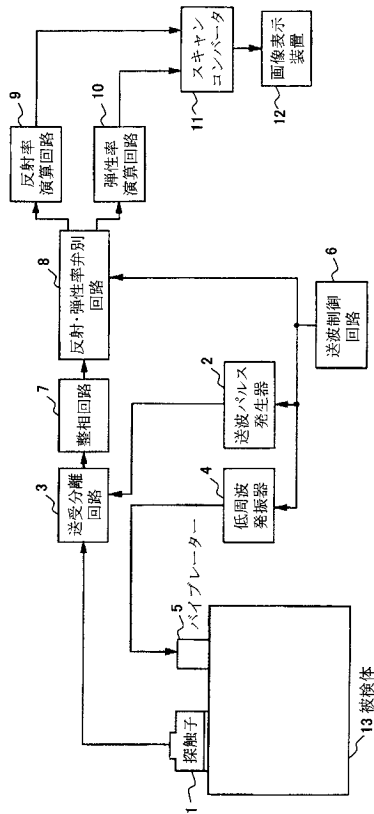
10

20

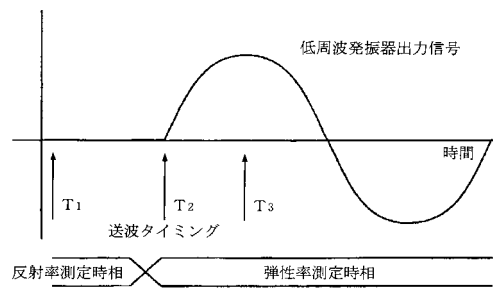
30

40

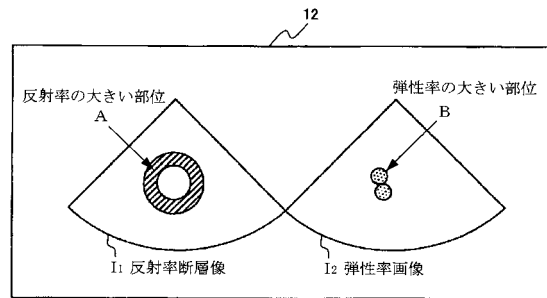
【 図 1 】



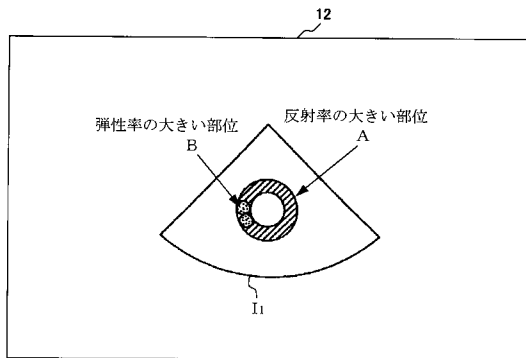
【 図 2 】



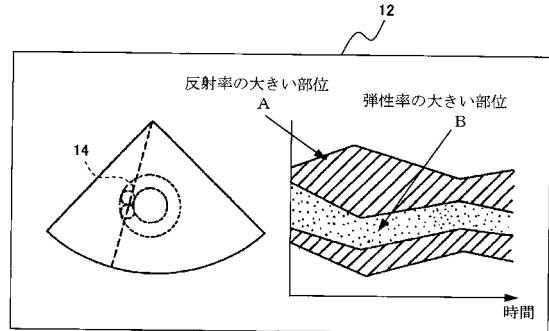
【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】



专利名称(译)	超声诊断设备		
公开(公告)号	<a href="#">JP2009000552A</a>	公开(公告)日	2009-01-08
申请号	JP2008228186	申请日	2008-09-05
[标]申请(专利权)人(译)	株式会社日立医药		
申请(专利权)人(译)	株式会社日立メディコ		
[标]发明人	石田一成		
发明人	石田 一成		
IPC分类号	A61B8/08		
FI分类号	A61B8/08 A61B8/14		
F-TERM分类号	4C601/BB02 4C601/DD19 4C601/DD23 4C601/KK02 4C601/KK12 4C601/KK13 4C601/KK24 4C601/KK25		
其他公开文献	JP4498451B2		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

摘要(译)

要解决的问题：提供一种超声波诊断装置，其中，生物体组织的反射率断层图像和弹性模量图像显示在图像显示装置的同一屏幕上。

ŽSOLUTION：超声诊断设备具有：探头1，用于向/从对象体发送/接收超声波；定相电路7，用于接收来自主体的反射回波信号，以进行延迟处理，定相和相加；电路9，用于从定相电路7输入定相输出信号，以计算生物组织的弹性模量；电路10，用于输入定相输出信号以计算生物组织的弹性模量；扫描转换器11，用于输入来自这些计算电路的计算输出信号，其中，超声波反射率和生物体组织的弹性模量在超声波扫描方向上测量到对象体内，并且反射率断层图像和弹性模量图像用时间的流逝显示在图像显示装置12上

